

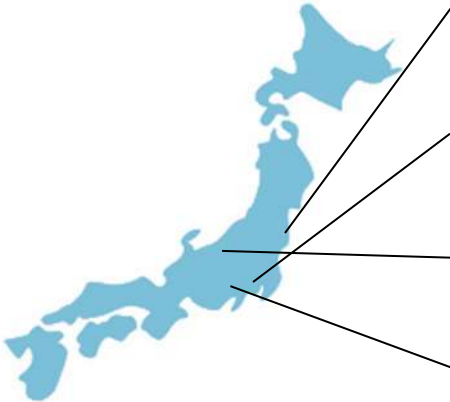


Annual Report 2021.04-2022.03

活動概要

公立高校における長期プロジェクト

プログラムの提供だけでなく、3～5年間の連携協定を結ぶことで、授業づくりだけでなく、チームマネジメントやビジョンづくりなど包括的な学校づくりに取り組んでいます。

- 
- 2017年度
福島県立ふたば未来学園（総合学科・30名）
場所：双葉郡広野町
科目：未来創造探究
 - 2018年～2021年度
東京都立第一商業高校（商業科・1035名）
場所：代官山（渋谷区）
科目：ビジネス基礎ほか
 - 2019年～現在
長野県市立長野高校（総合学科・480名）
場所：長野市
科目：探究
 - 2017年～2018年年度
山梨県立富士北稜高等学校（商業高校・60名）
場所：富士吉田市

1校につき、年間100～300人のメンターが参画

約4600人の中高生にプログラムを提供

※2017年から2022年3月末現在のみ算出

多様な学生や社会人を巻き込みながら、探究や課題研究、修学旅行のなかで生徒の個をひきだす起爆剤として、スポットでの授業も届けています。



その他：社会変革事業

教育の再定義にむけたアプローチを模索するべく、研究や新たなプロトタイプを立ち上げる「TANKEN」や、企業やソーシャルセクターと連携した社会変革プロジェクト、企業と大人の越境プログラム「SOTEIGAI」などに取り組んでいます。

NTT DATA
NTTデータ システム技術株式会社

Microsoft
Microsoft

一般社団法人
ELAB

長野県
Nagano Prefecture

学びプロダクション
roku you

atelier shimura

社会創発塾
Social Emergence School

kora
未来でつなぐ社会変革塾

ほか



at 東京

東京都立第一商業高校における5ヶ年の改革

概要

今年度が最終年度となった都立第一商業高校では、2018年度より5年間の連携協定を結び、地域や社会にひらかれた新しい学校と学びづくりを行ってきました。

毎年出会う生徒たちの価値観や空気感から、時代の変化を感じつつ、それを生かした学びのあり方を模索しつづけてきた5年間。今年はさらに「わたし」にフォーカスした学びをデザインしてきました。

生徒の話をじっくり聴く。

今年度は、例年に比べても、生徒からは「自分の話を聞いて欲しい」という思いが強く感じられました。コロナの影響による家庭環境のしんどさもあり、日常的に大人に話を聞いてもらえる環境にない生徒も多いようです。そのため生徒の日常や他愛もない話をじっくり聞くことを意識して臨んでいました。実際、生徒たちは、「この授業では何を言っても受け入れてもらえる、聞いてくれる」と感じてくれていたようで、学びにおいても、その前提となる自身の興味関心に耳を澄ますことなど、学びの土壌を耕す重要性、ここに時間をかけることの楽しさ、大切さを感じる1年でした。



スタッフ・佐野

1年間の学びのようす,1年生



第1回：対話ワークショップ

国内外から学生や社会人をメンターとして招き、教室の生徒とオンラインでつないで実施。画面上で初対面の人と自由に話したこの授業が一番印象に残っているという生徒も多かったよう。



第2回：「好き」のおとなりさんを探せ！

今まで自分では気づいていなかった興味関心に気づくため、生徒同士で質問と対話を行いながら「好きマップ」を広げてみるというワークショップ。（例：アイドルが好き→アイドルの何が好き？→衣装をよく見てるかも→どんな衣装が好き？→…）



第3~5回：WANTな人を決める・会いに行く（企画書）

「好きマップ」などをもとに、自身の興味関心に繋がる「知りたい」「会いたい」「見たい」などのWANTな人を決める時間。問合せ先や担当者をホームページから探し、聞きたいことを企画書にまとめて会いに行く準備をする時間です。その後は先生のサポートの元、アポイントを生徒たちが行いました。



第6~7回：ゲスト回

WANTをもとに仕事をしているゲストを招きお話してもらい、対話する時間。聴くだけでなく、ゲストに自分の趣味を見せる生徒たちも。多様な働き方、人生、進路があることを知れて良かった、という生徒の声がありました。



第8回：振り返り

授業の振り返りでは、さらに「わたし」を深めるために、人生グラフや自分エッセイを記入しながら1年間の「わたし」について自己対話を深めました。



特別会：google社員とミニインタビューワークショップ

今年度は特別編として、Google Japan社の社員さんへインタビューを実施。自由や多様性を感じ、興味関心を広げました。



at 長野

市立長野高等学校で地域に開かれた学校づくり

手放しながら、向き合う。

5年前、第一商業高校との協働が決まった時、公立高校という場をまだまだ知らなかった私たちは、「どうせ変わらない」と言われてきた複雑な壁や様々な困難・対立に直面しました。課題ばかりに視点が向き、「正しい」課題解決に挑もうとして始まりました。先生と対話を重ね、チームで悩み抜いた先に見えたのは、敢えて課題を背負いすぎず、手放し、信じて待つことです。すると自発的な取組みが増えたり、想定外の成果が生まれるようになりました。それは先生も同じだったようです。最終回の授業で「答えとか正解じゃなくて、何かになるかはわからないけど、それでも種を巻きつづけることが大事だ。成果が出るのが成果ではなく、やり続けることが成果だと思う。」と言われたことが印象的でした。共に、いい意味で当初の期待を裏切られ、それでも困難のなかでも共に楽しみつづけられたこと、これが「ひらかれた学校づくり」なのだと思います。 代表・石黒



協働パートナー・藍澤先生より

授業づくりでは、僕たちの人脈では呼べない方々と出会えることが本当に貴重で、私自身の楽しみでした。多様なバックグラウンドを持つ生徒たちが過ごしている本校ですが、多くの人に来てくれることで、生徒は生き生きとしていて、普段の授業では見られない表情や行動が生まれてきました。なにより、ここまで協働してきたことで徐々に教員たちや学校全体の空気が変わってきているなど実感しており、ここまでやってこれた本当に良かったなど実感しています。 藍澤先生



概要

2019年度から連携協定を締結している長野市立長野高等学校では、未来の「学び方」「教育課程の在り方」「学校の在り方」の3つの柱から多角的で地域に開かれた学校改革を進めています。COVID-19の影響からなかなか思うように活動できない部分もありますが、引きつづき、カリキュラムづくりにとどまらず、学校と社会を繋ぐ「iLAB」や、学校組織の土壌づくりなど学校全体のあり方を探究しています。

ローカルで支える「マイプロジェクト」

市立長野高等学校での取り組みのメインは、「翼プロジェクト」と名付けられた探究活動のうち、本格的な実践を進める2年生のカリキュラムデザインです。生徒たちが、「わたし」の好きなことや関心から企画した「マイプロジェクト」について実践・研究を深めていくもの。その多様な分野や視点には、学校・青春基地にとどまらず、地域の大学教授・NPO・起業家・専門家など、多様なメンバーが関わることで支えられています。今年度は、一度の出会いや関わりに終始せず、インタビューから中間発表や最終発表まで継続的に生徒のプロジェクトに関わってくださる地域の方が増え、地域とつながった豊かな学びが広がっているように感じます。



ジェネレーティブ・ワークショップ

探究の教室「iLAB」

2020年度から新設された「iLAB」は、生徒たちが授業にとどまらず、地域に飛び出したり、様々な挑戦や学びを広げられるようにとつくられた教室です。常駐職員もおり、探究や授業に関する相談はもちろん、授業外での探究もサポートできる体制が整えられています。日常的にふらりと立ち寄る居場所としての機能もあり、徐々に立ち寄る生徒も増えてきた様子。

今年は、もっと生徒や地域の方が日常的に関わり合う場にしようと、自らプロジェクトを立ち上げる生徒が現れました。県立図書館の館長さんらをお招きし、作戦会議をするシーンも。コロナの影響からまだまだ自由に地域と学校が行き来することは難しいですが、今後もさまざまな企画が進められる予定です。

「わたし」から始まる

最初のテーマが点となり、その後多様な点が繋がって大きな立体が作られる、それが探究だと思います。生徒たちが「わたしの思い」を大切に、探究を進めていくことで、日常と探究が混じり合う、そんなマイプロが生まれていったのだと感じています。



スタッフ・宮脇

概要

ジェネレーティブとは、“生み出す”を意味する言葉。言語だけでなく、身体性と言語をつかって探究します。より子どもたちの自己対話や創造性をひらく在り方を模索するなかで、新たに生まれたアプローチです。



with roku you：「SEL(Social Emotional Learning)」という理論を基盤に、沖縄県を拠点とする roku you と、3日間の探究ワークショップを開催。生徒の多様な表現やアクションが生まれる場となり、“Inside-out”をキーワードに協働が続いています。



with アトリエシムラ：人間国宝である染織家・志村ふくみの思想を受け継ぐブランド・アトリエシムラと共に、植物による染めと織りを通して「わたし」を織りなす学びにも取り組んでいます。



詳細はこちら

Pick Up News!

WEBをリニューアル



青春基地は、学生創業から今年で6年目。社会に対してどんなメッセージを届け、どんな思いのなかで人と繋がり、新たな教育をつくってきたいのだろう。

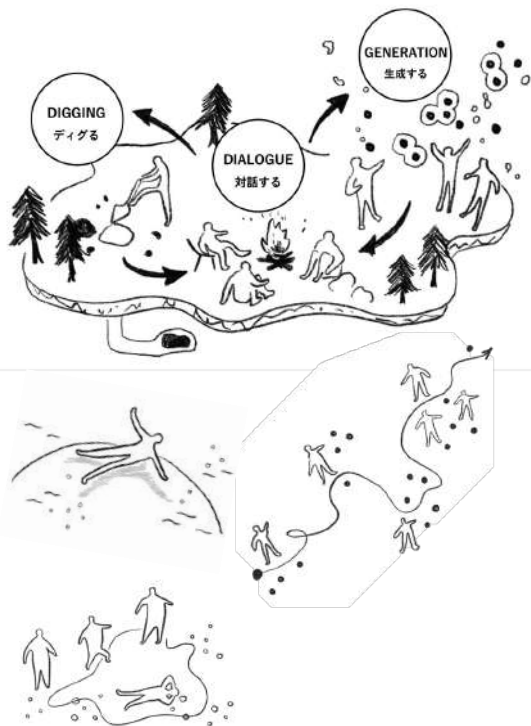
1年間をかけてメンバーと何度も議論し、熟考しながら今回のウェブを制作しました。どのページも濃い内容になっていますので、ぜひご覧いただければ幸いです。

<https://seishun.co/>

学びを研究する「TANKEN」

今年度から、より力をいれて取り組んできたのが、学びの研究です。

「教育の再定義」の手がかりを見つけていくために、日々の現場での実践や組織のなかでの実験から、問いや葛藤、時に手応えを取り出してナラティブに研究しています。研究のなかでキーワードにあるのが「生成 / Generative Pedagogy」。ベンヤミン、バタイユ、ドゥルーズらによる教育哲学を源流とした在り方です。詳細はWEBをご覧ください。



詳細はこちら



Pick up!

学びづくりの現場を担う インターン生たち

at Tokyo



at Nagano



2021年度収支報告 (2021.4.1-2022.3.31)

収入	受取会費	¥50,000
	受取助成金等	¥1,600,000
	事業収益	¥4,266,139
	その他(利息等)	¥44
収入合計		¥5,916,183
支出	事業費	¥8,573,900
	管理費	¥1,042,652
支出合計		¥9,616,552
収支	当期正味財産増減	△¥3,700,369
	前期繰越正味財産	¥6,968,366
	次期繰越正味財産	¥3,267,997

特定非営利活動法人 青春基地

〒153-0051 東京都目黒区上目黒1-18-3シュウビル308

MAIL: info@seishun.style

公式HP: <http://seishun.co>

NPO法人
青春基地